



魅力ある大学院教育の構築に向けて

平成18年2月

文部科学省 高等教育局

大学振興課 大学改革推進室

大学教育の充実に向けた今後の取組 の方向性を示す2つの中教審答申

➤ 我が国の高等教育の将来像

(平成17年1月28日)

➤ 新時代の大学院教育

—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて—

(平成17年9月5日)

我が国の高等教育の将来像

(平成17年1月28日 中央教育審議会答申)

～中長期的に想定される我が国の高等教育の将来像(言わば「グランドデザイン」)
とその実現に向けて取り組むべき施策を提示～

これまでは

「高等教育計画の策定と各種規制」の時代

移行

「将来像の提示と政策誘導」の時代へ

18歳人口の増減に依拠して高等教育規模を想定し
需給調整を図る政策手法はその使命を終える

答申の概要

I 高等教育の量的変化の動向

平成19(2007)年に大学・短期大学の収容力(入学者数÷志願者数)が100%になると予測

II 高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化

各大学は、自らの選択により、緩やかに機能別に分化

III 高等教育の質の保証

設置認可の的確な運用
第三者評価システム、自己点検・評価の充実

IV 高等教育機関の在り方

課程中心の考え方への再整理
大学の教員組織の在り方の見直し

V 高等教育の発展を目指した社会の役割

高等教育への公財政支出の拡充
多元的できめ細やかなファンディング・システムの構築

ユニバーサル段階における大学の機能別分化

① 世界的研究・教育拠点

② 高度専門職業人養成

③ 幅広い職業人養成

④ 総合的教養教育

⑤ 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育研究

⑥ 地域の生涯学習機会の拠点

⑦ 社会貢献機能（地域貢献、産学連携等）

○

18歳人口の減少、
進学率の上昇

大学の持つ**多様な機能**の
何に重点を置くか

各大学の個性・特色

～緩やかに機能別に分化～

国公立大学を通じた 大学教育改革の支援事業の趣旨

- 大学教育改革への取組が一層促進されるよう、各大学が取り組む教育プロジェクトに対し、国公立大学を通じた競争原理に基づいて優れた取組を選定するとともに、重点的な財政支援を行い、高等教育の更なる活性化を図る。

多元的できめ細やかなファンディング・システム

大学、短期大学、高等専門学校

デュアル・サポート

基盤的経費助成

- 国立⇒運営費交付金
- 公立⇒地方交付税交付金
- 私立⇒私学助成

競争的資源配分

- 大学教育改革支援経費
(特色GPなど)
- 競争的研究資金
(科研費など)

国公立大学を通じた大学教育改革の支援の充実

～大学の個性・特色に応じた教育の充実・実質化の更なる推進～ (平成17年度予算額 533億円
平成18年度予定額 562億円)

多元的できめ細やかなプログラムの展開

大学の様々な機能

国際競争力のある世界最高水準の研究教育拠点形成
21世紀COEプログラム

世界的研究・教育拠点

社会の要請に応える専門職業人養成の推進

法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム

資質の高い教員養成推進プログラム

地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム

高度専門職業人養成

幅広い職業人養成

総合的教養教育

特定の専門的分野の教育・研究

地域の生涯学習機会の拠点

社会貢献機能

など

現代的課題に対応できる人材養成と大学の多様な機能の展開

現代的教育ニーズ取組支援プログラム

大学教育の国際化推進プログラム

課程に応じた教育内容・方法等の高度化・豊富化の充実

特色ある大学教育支援プログラム

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

大学に応じた特色の発揮

・国公私を通じた競争的環境・第三者による公正な審査・社会への積極的な情報提供

国公立大学を通じた大学教育改革の支援の充実 平成18年度予算案

平成18年度予定額 562億円 (17年度予算額 533億円)

1. 課程に応じた教育内容・方法の高度化・豊富化の充実 77億円 (63億円)

- 特色ある大学教育支援プログラム 35億円 (33億円)
- 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 42億円 (30億円)

2. 現代的課題に対応できる人材養成と大学の多様な機能の展開 65億円 (54億円)

- 現代的教育ニーズ取組支援プログラム 46億円 (30億円)
- 大学教育の国際化推進プログラム 19億円 (24億円)
 - ・長期海外留学支援
 - ・海外先進教育研究実践支援
 - ・戦略的国際連携支援

3. 社会の要請に応える専門職業人養成の推進 38億円 (31億円)

- 法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム 16億円 (18億円)
- 資質の高い教員養成推進プログラム 9億円 (5.5億円)
- 地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム 13億円 (7.5億円)

4. 国際競争力のある世界最高水準の研究教育拠点形成 378億円 (382億円)

- 21世紀COEプログラム 378億円 (382億円)

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

平成18年度予定額 42億円

(17年度予算額30億円)

- 現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな研究者の育成に主眼を置いた意欲的かつ独創的な大学院教育の取組を公募により選定し、重点的に支援する。選定した取組は広く社会に情報提供し、大学院教育の改善に供する。
- 大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)を促進。

【平成18年度】

- ・平成17年度選定取組の継続的支援
- ・平成18年度新規公募の実施

平成17年度 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ申請・採択状況一覧

区分	人社系				理工農系				医療系				合 計			
	申請数		採択課題数		申請数		採択課題数		申請数		採択課題数		申請数		採択課題数	
	大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数
国立大学	25	50	15	24	56	131	19	39	31	41	14	15	64	222	30	78
公立大学	8	8	0	0	4	11	1	2	7	11	1	1	14	30	2	3
私立大学	34	42	9	11	26	26	2	2	17	18	3	3	69	86	13	16
合 計	67	100	24	35	86	168	22	43	55	70	18	19	147	338	45	97

※大学数の合計は、1大学で複数分野(系)への申請があるため、各系の合計数と「合計」欄の数値は一致しない。



新時代の大学院教育

— 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて —

(平成17年9月5日中央教育審議会答申)

大学院をめぐる状況

20年で3.6倍

○大学院在学者数

うち博士課程

<1985年>	<1995年>	<2005年>
7.0万人⇒	15.3万人⇒	25.4万人
2.2万人⇒	4.4万人⇒	7.5万人

○大学院への進学率

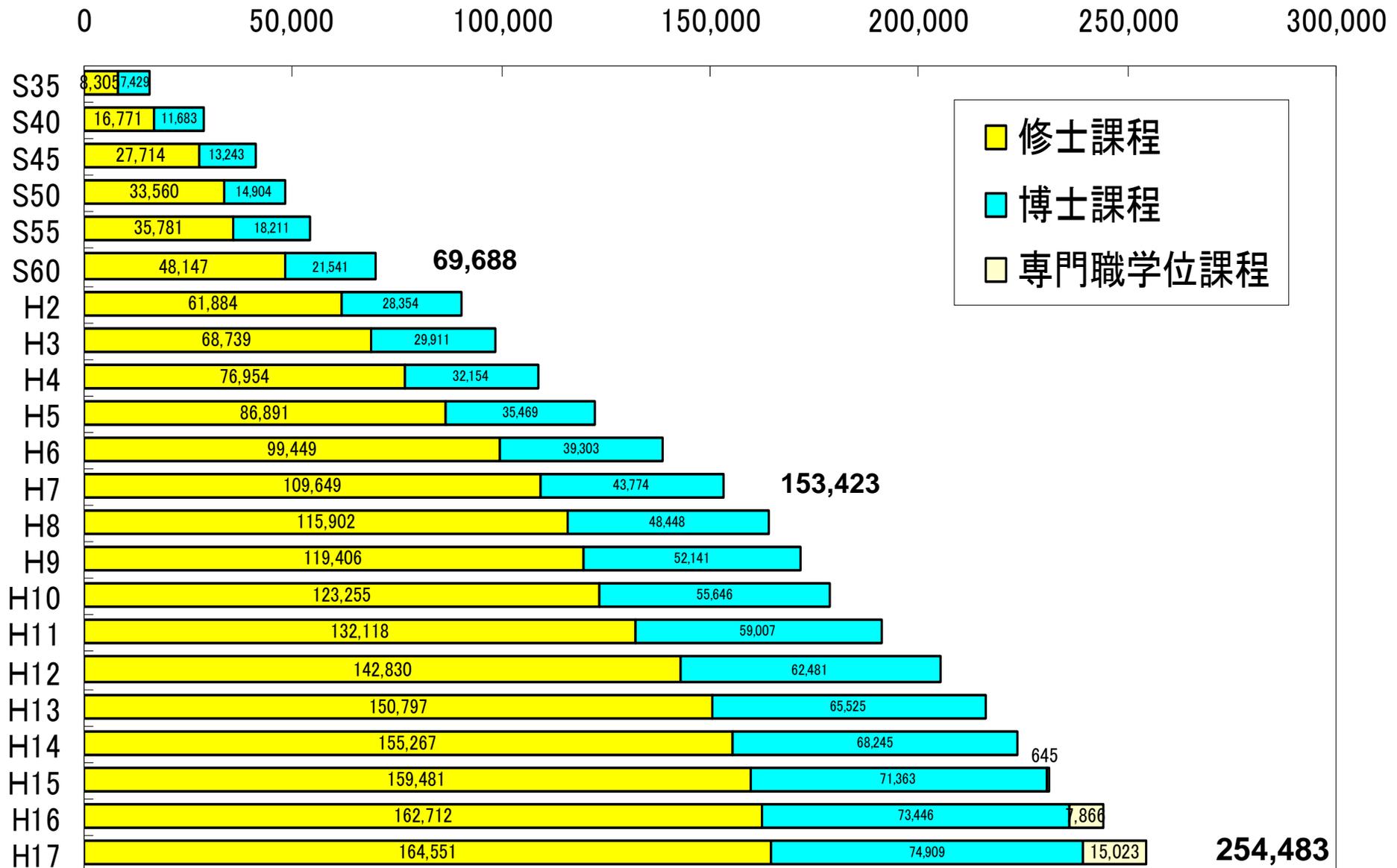
5.5%⇒	9.0%⇒	11.4% (2004年)
-------	-------	-------------------------

○入学者のうち社会人学生の割合 (2004年)

修士課程: **10.6%**、博士課程: **20.7%**、専門職学位課程: **28.4%**

大学院在学者数の推移

出典: 学校基本調査



- これまで、**制度の整備や量的な充実に重点**
(大学院大学、専門職大学院制度の創設、入学資格・就業年限の弾力化 等)



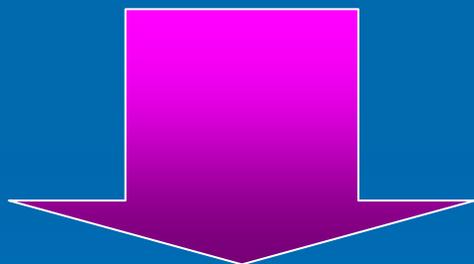
- 今後は、**国際的な水準での教育研究機能の更なる強化**が必要



- このため、**大学院教育の実質化**に焦点を当てて、平成15年12月以降、大学分科会大学院部会を中心に検討

- ・平成16年8月 審議経過の概要
- ・平成17年6月 中間報告
- ・平成17年9月 **答申**

- 大学院への進学率の上昇、社会人や留学生など多様な学生の増加
- 知識基盤社会の到来
- 社会のニーズの多様化・高度化
- 真の科学技術創造立国の実現に向けた人材養成の必要性



徒弟制的な教育
は限界?.....

大学院教育の組織的な展開の強化
国際的な通用性、信頼性の向上

が必要

博士、修士、専門職学位課程の目的・役割

【博士課程】

研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う。

【修士課程】

幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培う。

【専門職学位課程】

特定の高度専門職業人の養成に特化して、国際的に通用する高度で専門的な知識・能力を涵養する。

大学院に求められる人材養成機能

- 創造性豊かな研究者等
- 高度専門職業人
- 教育と研究の能力を兼ね備えた大学教員
- 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材

の4つに整理

基本的な考え方

①大学院教育の実質化 ～教育の課程の組織的展開の強化～

- 各大学院の課程の目的を明確化
- 体系的な教育プログラムの編成・実践

②国際的な通用性、信頼性の向上

- 大学院評価の確立、国際的な質保証活動への参加、
- 世界的な教育研究拠点の形成支援等

(1) 課程制大学院制度の趣旨に沿った教育の課程と研究指導の確立

① コースワークの充実・強化

- 大学院の課程の単位の考え方の明確化
- 修士課程及び博士課程(前期)の修了要件の見直し
- 主専攻・副専攻制、ジョイントディグリー
- 博士課程の短期在学コースの創設の検討
- 国の重点的支援と情報提供の推進

② 円滑な博士の学位授与の促進

- 教員の意識改革、教育プロセスの明確化、適切な教育・研究指導
- 学位論文等の積極的な公表、論文審査方法の改善等による学位水準の確保
- 「論文博士」の在り方の検討

③ 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

- 課程の目的、教育内容・方法についての組織的な研究・研修(FD)
- 成績評価基準の明示と厳格な成績評価・修了認定
- 教員の教育研究活動の評価

(2) 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した 人材養成機能の強化

◎産業界等社会のニーズと大学院教育のマッチング

地域連携活動の推進と地域の発展への貢献

博士課程修了者等の多様なキャリアパスの開拓

- 産学協同教育プログラム
- 単位認定を前提とした長期間の実践的なインターンシップの実施
- 各大学院による学生のキャリアパス形成に関する指導、博士課程修了者の研究市場への積極的なアピール
- 企業等による博士の学位の取得者等の実力を評価した人材の登用

(3) 学修・研究環境の改善及び流動性の拡大

① 学生に対する修学上の支援及び流動性の拡大

- 特別研究員事業、TA・RA等としても活用できる競争的研究資金の拡充
- 学生への経済的支援制度の審査等の早期化
- 大学院入学後の補完的な教育プログラムの提供
- リカレント教育の実施
- 社会人の大学院への進学・再入学についての産業界等による支援

② 若手教員の教育研究環境の改善及び流動性の拡大

- 若手教員のキャリアパスに応じた体系的な教育研究環境の整備
- 各大学院、企業等による研究者の流動性拡大に関する取組の実施

(4) 大学院評価の確立による質の確保

◎事前評価(設置認可制度)と事後評価(認証評価制度など)の適切な役割分担と協調の確保等

⇒全体として大学の質を保証する大きな枠組みを確立

とりわけ事後評価については、

① 自己点検・評価

(大学院の専門分野別自己点検・評価の促進)

② 認証評価

(将来、大学全体の「機関別評価」に加え、「専門分野別評価」を導入)

③ 評価団体の適正さを担保する仕組み

により、早期に定着、実効性ある評価へと発展・充実させていくことが急務。

(2) 国際社会における貢献と競争

①教育研究を通じた国際貢献・協調

- 国際化戦略支援
- 国際的な大学の質保証に関する協議への参加

②国際競争力のある卓越した教育研究拠点の形成支援

- ポスト「21世紀COEプログラム」の具体化

「大学院教育振興プラットフォーム（仮称）」 の策定

- 国は、今後5年間程度の期間において早急に取り組むべき重点施策を明示
⇒体系的・集中的な施策展開
- 各大学はそれを踏まえつつ、大学院教育の充実を図る



現在策定作業中